

1. 研究業績

看護学専攻

A 欧 文

A-a

1. Yanagihara K, Kaneko Y, Sawai T, Miyazaki Y, Tsukamoto K, Hirakata Y, Tomono K, Kadota J, Tashiro T, Murata I, Kohno S: Efficacy of linezolid against methicillin-resistant or vancomycin-insensitive *Staphylococcus aureus* in a model of hematogenous pulmonary infection. *Antimicrob Agents Chemother*, 46(10): 3288-3291, 2002. * ☆
2. Nakagoe T, Sawai T, Tsuji T, Jibiki M, Nanashima A, Yamaguchi H, Yasutake T, Ayabe H, Matsuo T, Tagawa Y: Prognostic value of expression of sialosyl-Tn antigen in colorectal carcinoma and transitional mucosa. *Digestive Diseases and Sciences*, 47: 332-330, 2002. *
3. Terada R, Yasutake T, Nakamura S, Hisamatsu T, Sawai T, Yamaguchi H, Nakagoe T, Ayabe H, Tagawa Y: Clinical Significance of NM23 Expression and Chromosome 17 Numerical Aberrations in Primary Gastric Cancer. *Medical Oncology*, 19: 239-248, 2002. *
4. Chujo M, Noguchi T, Miura T, Arinaga M, Uchida Y, Tagawa Y.: Comparative genomic hybridization analysis detected frequent overrepresentation of chromosome 3q in squamous cell carcinoma of the lung. *Lung Cancer*, 38: 23-9, 2002. *
5. Kondoh T, Matsumoto T, Izumi S, Niikawa N, Moriuchi H, Ishimaru T: Genetic counseling system in Nagasaki University Hospital and genetic services in Nagasaki prefecture-Now and Future. *Clin Pediatr* 11(Suppl 17): 1-7, 2002
6. Hamada A, Kondoh T, Kamei T, Tominaga N, Tsuru A, Matsumoto T, Matsuzaka T, Moriuchi H: Protein-losing enteropathy complicated with recurring convulsions and developmental delay in a 4-month-old boy. *Pediatr Internat* 44: 686-689, 2002
7. Sugita S, Kohno T, Yamamoto K, Imaizumi Y, Nakajima H, Ishimaru T, Matsuyama T: Induction of macrophage-inflammatory-3 α gene expression by TNF-dependent NF- κ B activation. *J Immunol* 168: 5621-5628, 2002. * ○

A-b

1. Ishihara K, Moji K: Recognition of Informed Consent by nurses and their role behavior. In Proceedings of 12th International Conference on Cancer Nursing, 2002: 54, 2002.
2. K. Oishi, M. Araki, K. Moji, B. Park: Childbirth-related traditional customs in Japan and Korea. International Confederation of Midwives 26th Triennial Congress; pp16, 2002.

A-d

1. Yano H, Tsuji T, Haseba M, Komatsu H, Hidaka S, Sawai T, Yamaguchi H, Yasutake T, Nakagoe T, Tagawa Y: Elevated Expression of 1. Poly (ADP-Ribose) Polymerase-1 is Associated with Liver Metastasis in Colorectal Cancer. *Acta Med. Nagasakiensia*: 111-115, 2002.
2. Haseba M, Tsuji T, Yano H, Komatsu H, Hidaka S, Sawai T, Yasutake T, Nakagoe T, Tagawa Y: Expressions of Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF)-D and VEGF Receptor-3 in Colorectal Cancer: Relationship to Lymph Node metastasis. *Acta Med. Nagasakiensia*, 47: 155-160, 2002

B 邦 文

B-a

1. 赤嶺晋治、岡 忠之、村岡昌司、永安 武、佐野 功、近藤正道、田川泰、綾部公懿：開胸手術症から見た胸腺腫に対する胸腔鏡下手術の妥当性に関する検討。日本呼吸器外科学会雑誌、16：101-105、2002。

2. 森山伸吾、中島久良、宗 陽子、小寺宏平、藤下 晃、石丸忠之；妊娠合併 CIN に対する円錐切除術に関する検討、日本生殖外科学会雑誌 15：82-88、2002。
3. 松浦祐介、柏村正道、川越俊典、土岐尚之、中島久良、加来恒寿、柏村賀子、齋藤竜太、齋藤俊章、松隈敬太、牟田 満；外陰 paget 病22例の細胞病理学的検討、日臨細学会九連会誌 33：30-35、2002。
4. 森山伸吾、西 大介、宗 陽子、小寺宏平、石丸忠之、中島久良、林田満能；子宮体癌における腹腔細胞診の予後因子としての可能性について、日産婦学会九連会誌 53：68-72、2002。
5. 半澤節子；セルフヘルプ・グループ活動と地域保健福祉活動、生活教育、46(5)：7-12、2002。
6. 半澤節子、塚原洋子；新任研修における事例検討の効果と課題、保健婦雑誌、58(7)：588-594、2002。
7. 半澤節子；精神医療の体験をふりかえって、全国精神保健研究会編 精神保健ジャーナルゆうゆう、季刊43号：38-50、2002。
8. 半澤節子；セルフヘルプ・グループとの協働による地域の発展を目指して、響き合う街で、通巻58号：64-68、2002。
9. 半澤節子；当事者組織の現状と課題～当事者組織と精神科医療の協働に向けて、精神障害とりハビリテーション 6(2)：97-98、2002。
10. 半澤節子；セルフヘルプグループと専門職の関係～地域生活支援システムに期待される精神科医療を求めて、精神療法、28(6)：45-51、2002。

B-b

1. 大石和代、荒木美幸；里帰り分娩（出産）に関する調査—遠距離里帰りと近距離里帰りの比較—、日本助産学会誌 15(3)：250-251、2002。
2. 山本直子、原 恵子、荒木美幸、中尾優子、大石和代；保育園における母乳育児支援の現状—長崎県下の保育園への質問紙調査より—、母性衛生 43(3)：164、2002。
3. 原恵子、中尾優子、大石和代；産褥期の乳頭損傷に対するピアバーユの有効性について、母性衛生 43(3)：188、2002
4. 半澤節子；MDA 設立記念国際交流セミナーにおけるシンポジウム「地域における危機介入と精神科救急」の報告から、月刊ぜんかれん、428号、54-55、2002。
5. 半澤節子；日加精神保健交流協議会 8 年の歩みから～バンクーバーとの交流報告、第 5 回日本健康福祉政策学会学術大会報告集：58-63、2002。
6. 寺崎明美；看護実践に役立つ基礎医学の現状とこれから「コメント／薬理学」、日本看護協会出版会、看護、048、2002。

B-c

1. 田代隆良；ノカルジア症、新臨床内科学(第 8 版)、高久史麿、尾形悦郎、黒川 清、矢崎義雄監修、医学書院、東京、2002、pp1745-1746
2. 田代隆良；放線菌症、新臨床内科学 (第 8 版)、高久史麿、尾形悦郎、黒川 清、矢崎義雄監修、医学書院、東京、2002、pp1746-1747
3. 田代隆良；真菌症、新臨床内科学 (第 8 版)、高久史麿、尾形悦郎、黒川 清、矢崎義雄監修、医学書院、東京、2002、pp1806-1810
4. 田代隆良；伝染性単核症、今日の治療指針 2002年版、多賀須幸男、尾形悦郎監修、医学書院、東京、2002、p157-158
5. 鳥飼勝隆、田代隆良、松下修三、藤田紘一郎；感染症、year note 内科・外科編 (2003年版)、岡庭 豊編集、三角和雄監修、MEDIC MEDIA、東京、2002、H 1-H94。
6. 田代隆良；深在性真菌症、SELRECTED ARTICLES 2003、山口真紀・安達祥子、青木裕美編集、MEDIC MEDIA、東京、2002、pp1211-1222。
7. 半澤節子；相談および訪問活動の方法・技法、市町村時代の精神保健福祉業務必携（石川到覚、田中英樹、天野宗和、伊東秀幸 半澤節子 編集）、中央法規出版、東京：72-83、2002
8. 門司和彦・島田雅暁・鷹居樹八子；「やまい」の理解、ナラティブベーストメディスン／ナーシングと国際保健；生存と生活、13、35-42、2002、9
9. 松本 正；遺伝カウンセリング、穂山富太郎、川口幸義編、脳性麻痺ハンドブック、医歯薬出版 pp41-46、2002
10. 中島久良、附属器 2、第27回細胞診断学セミナーテキスト、日本臨床細胞学会教育委員会編、日本臨床細胞学会、東京、41-44、2002。

B-d

1. 田代隆良、浦田秀子、千住秀明、大池貴行、千住泰代、勝野久美子、力富直人：慢性肺気腫患者の呼吸筋力、下肢筋力、栄養状態に関する研究。長崎大学医学部保健学科紀要、15(1)：1-8、2002。
2. 千住泰代、大池貴行、栗田健介、勝野久美子、力富直人、浦田秀子、田代隆良、千住秀明：慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸筋力と肺機能、運動耐容能との関連性について。長崎大学医学部保健学科紀要、15(1)：9-14、2002。
3. 浦田秀子、田代隆良、中尾理恵子、松本麻里、河辺千鶴子、勝野久美子、力富直人：慢性肺気腫患者の栄養状態と呼吸機能、ADLに関する研究。長崎大学医学部保健学科紀要、15(1)：15-22、2002。
4. 齋藤 寛、由井克之、綾部公懿、松坂誠應、田代隆良、大園恵幸：診療・介護シミュレーション教育システムが基本的臨床技能の学習効果に及ぼす影響についての質的研究。平成13年度教育研究改革・改善プロジェクト研究成果報告書。長崎大学、2002、p99-104。
5. 田川 泰、浦田秀子、岡田純也、中野裕之、井口 茂、Todd Saunders、赤嶺晋治、岡 忠之、綾部公懿：広範囲気道狭窄に対する術語ステント療法の現状と看護要。長崎大学医学部保健学科紀要、15：81-84、2002。
6. 田川 泰、浦田秀子、井口 茂、中野裕之、石橋経久、楠本真理子、片田美咲、Todd Saunders、山口美和子、松本 愛、山根幸子：クラシック音楽とロック音楽の相違による心理ストレス反応と細胞性免疫能変化。長崎大学医学部保健学科紀要、15：89-94、2002。
7. 田川 泰、横山茂樹、井口 茂、中野裕之、浦田秀子、赤嶺晋治、岡 忠之：肺葉切除後 ARDS に罹患した横隔神経麻痺症例に対する統合ケアの必要性。長崎大学医学部保健学科紀要、15：2002。
8. 田川 泰、浦田秀子、岡田純也、中野裕之、井口 茂、赤嶺晋治、岡 忠之、綾部公懿：気道狭窄に対する T チューブと Expanding Metallic Stent 併用の長期挿入症例—気管内 T チューブの自己管理指導で成功した 1 症例。長崎大学医学部保健学科紀要、15：85-87、2002。
9. 河野多世、山本雅子、岩永真純、浦田秀子、西山久美子：睡眠・覚醒状態の把握により傾向摂取への移行が可能となった脳出血後遺症患者の看護。長崎大学医学部保健学科紀要、15：9-14、2002
10. 松尾理佳子、宮田聖子、田上さくら、浦口千鶴、福江まさ江、浦田秀子、西山久美子：家族の不安軽減に重点を置き退院支援を行った一事例。長崎大学医学部保健学科紀要、15：35-38、2002
11. 藤井優希、横田千草、徳永みどり、真壁美智子、吉岡 梢、井上千鶴子、浦田秀子、西山久美子：日常生活行動の著明な改善を認めた重症アルツハイマー病の一事例。長崎大学医学部保健学科紀要、15：27-31、2002
12. 井上 歩、佐藤恵子、草野可代子、松尾美佐子、浦田秀子、西山久美子：経皮内視鏡的胃瘻造設術を受けた患者とその家族を支える看護の役割。長崎大学医学部保健学科紀要、15：7-12、2002
13. 岩永喜久子、門司和彦、永田耕司；大学病院看護師のバーンアウトスコアと東大式自記健康調査票 (THI) 成績。長崎大学医学部保健学科紀要 15(1)：39-46、2002
14. 岩永喜久子、門司和彦；透析患者のメンタルヘルス、第 7 回長崎県国保地域医療学会誌：7-10、2002
15. 半澤節子、石原和子、永田耕司、黒岩かをる：合同模擬演習に対する看護学生と医学生との捉え方の相違～合同模擬演習後の自由記載の分析から。長崎大学医学部保健学科紀要、15(1)：75-80、2002。
16. 半澤節子、中尾理恵子、志水友加、他：精神障害者の地域活動という場における新たな出会い～第39回長崎県総合公衆衛生研究会自由研究集会の記録概要から。長崎大学医学部保健学科紀要、15(1)：97-104、2002。
17. 中尾優子、大平光子、柳澤理子：カンボジアにおける母子保健と国際協力の実際。長崎大学医学部保健学科紀要 15(1)：47-51、2002
18. 前田規子、中尾優子、宮原春美、中島久良：看護基礎教育における母性看護実習の展開。長崎大学医学部保健学科紀要 15(1)：61-67、2002
19. 寺崎明美、辻 慶子、鷹居樹八子、間瀬由起、関根 剛：喉頭摘出者の日常生活負担感とセルフヘルプ・グループから得ている支援との関連。長崎大学医学部保健学科紀要 15(2)：33-40、2002。
20. 鷹居樹八子・門司和彦・豊澤英子・三重野英子・桶田俊充：老人保健施設入所者への生活史聴取とナラティブベースド・ナーシング；長崎大学医学部保健学科紀要、15(1)：23-30、2002。 6
21. 辻 慶子・鷹居樹八子・半澤節子・石原和子：医学生と看護学生の合同演習前後での医師・看護師に対するイメージの変化；長崎大学医学部保健学科紀要、15(1)：69-74、2002。 6
22. 松本 正、清水貴士、津留 陽：新規変異を示した X 連鎖性副腎白質変性症の 1 例。長崎大学医学部保健学科紀要 15(1)：95-96、2002
23. “I can cope” プログラム 米国・ミネソタ視察研修に参加して。長崎大学医学部保健学 科紀要、15(1)：1-6、2002
24. 中尾理恵子、田原靖昭、石井伸子、賀来 俊、門司和彦：大学生の喫煙行動と喫煙問題。長崎大学医学部保健学科紀要、15(1)、53-59、2002。
25. 中尾理恵子、中尾優子、前田規子、志水友加、岡田純也、荒木美幸、野村亜由美、石原和子：公開講座の展開と評価—「家庭における介護技術」坂道地域に住む人々への在宅支援。長崎大学医学部保健学科紀要、15(2)、41-45、2002。
26. 宮下弘子、宮原春美、前田規子：本学における小児看護実習の展開—病棟実習について。長崎大学医学部保健学科紀要、15(2)：55-56、2002。
27. 川井八重、住田優子、土屋紀子；投影法と自尊感情尺度を用いた地域高齢者の介護意識に関する検討—介護規範と

- 介護における関係性に関する検討一、高知医科大学紀要 18、25-34、2002。
 28. 北山秋雄、高野順子、土屋紀子、平澤則子、安田貴恵子、頭川典子、坪内美奈、松下光子、米増直美、松本恵子、池田明美、清水美子、永島すえみ、川井八重、住田優子；カナダ夏期研修2001-21Cのコミュニティ・ディベロップメントのあり方を求めて一：40～43、CSOCD 発行、2002。

原著論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総計
2002	7	2	0	2	11		10	6	10	28	54	65

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2002	0	0	5	5	3	1	115	119	124

原著論文総数に係る教官生産係数一覧

	欧文論文総数 (論文総数)	教官生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文 欧文論文総数	教官生産係数 (SCI掲載論文)
2002	0.169	0.44		

理学療法学専攻

A 欧 文

A-a

1. T Origuchi, K Migita, A Kawakami, S Yamasaki, A Hida, K Shibatomi, H Ida, Y Kawabe, K Eguchi: Atypical mycobacteriosis in two patients with rheumatoid arthritis. *Modern Rheumatol* 12(1): 76-79, 2002.
2. A Kawakami, A Hida, S Yamasaki, T Miyashita, K Nakashima, F Tanaka, H Ida, M Furuyama K Migita, T Origuchi, K Eguchi: Modulation of the expression of membrane-bound CD54 (mCD54) and soluble form of CD54 (sCD54) in endothelial cells by glucosyl transferase inhibitor: possible role of ceramide for the shedding of mCD54. *Biochem Biophys Res Commun* 296(1): 26-31, 2002. *
3. Senjyu H., Yokoyama S., Sukisaki T., Tanaka T., Honda S., Ohike T.; Assessment of the pattern of breathing using scalene palpation. *Physiother Theor Pract* 19: 95-104, 2002.

B 邦 文

B-a

1. 折口智樹、右田清志、田中史子、宮下賜一郎、山崎聡士、飛田あゆみ、井田弘明、川上 純、江口勝美：関節リウマチ (RA) による続発性アミロイドーシスにおける SAA1 遺伝子の検討、臨床リウマチ 14(3)：156-160、2002
2. 川上 純、宮下賜一郎、山崎聡士、田中史子、和泉泰衛、飛田あゆみ、中島コト、古山雅子、井田弘明、右田清志、江口勝美、坪井雅彦、松岡直樹、折口智樹：治療抵抗性関節リウマチに対するシクロスポリンAとタクロリムスの有効性、臨床リウマチ 14(4)：219-223、2002
3. 本多靖洋、岩永 洋、朴 惠榮、山崎聡士、蒲池 誠、柴富和貴、喜多雅子、飛田あゆみ、井田弘明、折口智樹、川上 純、本村政勝、右田清志、河部庸次郎、鳥山 寛、江口勝美：繰り返すループス肺臓炎を加療中、急性肺胞出血で死亡した、高齢発症男性 SLE の一例、九州リウマチ 21：85-90、2002
4. 松坂誠應；地域リハビリテーション・システムの実際一県域における取り組み、リハ医学 36(3)：136-140、2002.
5. 中田 彩、沖田 実、中居和代、中野治郎、田崎洋光、大久保篤史、友利幸之介、吉村俊朗：持続的伸張運動の実施時間の違いが関節拘縮の進行抑制効果におよぼす影響—マウスにおける実験的研究—、理学療法学 29：1-5、2002.
6. 草野加奈、平岩幸代、早田康一、武藤晶子、増山美有紀、大木田治夫、沖田 実：脳血管障害患者のステップ肢位における前後方向への重心移動能力について、長崎理学療法 2：15-19、2002.
7. 真島京子、原田直樹、津本真美、中居和代、本多歩美、大木田治夫、沖田 実：骨盤前後傾の動きに関する基礎的検討、長崎理学療法 2：20-22、2002.
8. 高橋哲也、石川 朗、神津 玲、桜田弘治、嶋崎 晃、千住秀明、眞淵 敏；人工呼吸器装着中の呼吸理学療法に関する全国調査、理学療法学、29：230-236、2002.
9. 宮本顕二、植木 純、桂 秀樹、千住秀明；呼吸リハビリテーションの実際—チーム医療／EBM—、呼吸 521：527-537、2002.
10. 田中貴子、北川知佳、中ノ瀬八重、田所杏平、與座嘉康、石野友子、三川浩太郎、千住秀明、俵 祐一、有蘭信一；慢性肺疾患患者における栄養障害の検討、理学療法探求 5：11-18、2002.
11. 千住秀明；理学療法用語～正しい意味がわかりますか？呼吸、理学療法ジャーナル 36：692、2002.
12. 千住秀明；呼吸介助・リハビリと呼吸法の指導、JJN スペシャル 71：151-162、2002.
13. 千住秀明、平山ふみ；理学療法士と研究、長崎理学療法 3：1-7、2002.
14. 千住秀明、山田純生；呼吸理学療法の効果と限界、理学療法学 29：82、2002.
15. 有蘭信一、高橋哲也、千住秀明；運動障害を有する患者の全身持久力低下に対する理学療法、理学療法ジャーナル 36：917-924、2002.
16. 有蘭信一、千住秀明、高橋哲也；Shuttle walking test の有用性、理学療法ジャーナル 36：782-784、2002.
17. 有蘭信一、北川知佳、田中貴子、大池貴行、力富直人、高橋哲也、門司和彦、千住秀明；慢性閉塞性肺疾患患者の運動耐容能評価法としての漸増シャトルウォーキングテストの妥当性、日本呼吸管理学会誌 11：414-419、2002.
18. 與座嘉康、北川知佳、田中貴子、中ノ瀬八重、田所杏平、石野友子、門司和彦、千住秀明；慢性呼吸不全患者の日常生活における上肢運動について、長崎理学療法 2：7-14、2002.
19. 栗田健介、大池貴行、千住泰代、勝野久美子、力富直人、千住秀明；慢性閉塞性肺疾患患者における握力と上肢 ADL、肺機能の関係、長崎理学療法 1：23-25、2002.

B-b

1. 折口智樹、江口勝美：ペーチェット病、検査計画法、総合臨床、永井書店、東京、51 Supple：1796-1802、2002
2. 折口智樹、江口勝美：リウマチはうつるのですか？「ウイルス性のリウマチ」、ホスピタウン、東京、6：91、2002
3. 江口勝美、折口智樹：関節リウマチ、早期診断の現状とその問題点、Medical Practice、文光堂、東京、19(7)、1129-1133、2002
4. 鶴崎俊哉、井口 茂、中野裕之、沖田 実、穂山富太郎：主働作筋・拮抗筋の相反的活動から見た歩行の発達に関する検討、理学療法学 28(Suppl 2)：299、2002
5. 川村 浩、池田美保、鶴崎俊哉：被殻出血における血腫の浸潤程度と運動機能予後予測について、理学療法学 28(Suppl 2)：318、2002
6. 池田美保、川村 浩、鶴崎俊哉：視床出血における血腫の浸潤程度と運動機能予後予測について、理学療法学 28(Suppl 2)：318、2002
7. 鶴崎俊哉：脳性麻痺に対する理学療法のキーポイント、理学療法 19(7)：836-842、2002
8. 松坂誠應、藤田雅章：地域リハビリテーションにおける保健活動 介護保険制度開始前後の比較、リハ医学 36(Suppl)：s215、2002.
9. 田端 生、中嶋恵美、新里 健、田原弘幸：透析患者の痛みと透析歴との関連。第24回九州理学療法士・作業療法士合同学会誌 64、2002
10. 井口 茂、松坂誠應、山川志子、片岡巧巳、石丸将久、小泉徹児、森内晶子、田原弘幸：高齢者の転倒リスクとその関連要因について、理学療法学 358、2003
11. 平瀬達哉、塩塚 順、山元秀文、井口 茂、田原弘幸：当院における睡眠時無呼吸症候群患者へのスクリーニングに関する検討、理学療法学 401、2003
12. 藤野英己、武田 功、禰屋俊昭、秋山純一、大西智也、仁木恵子、梶谷文彦、荒木淳一、赤木徹也、沖田 実：持続的他動運動による骨格筋の求心性神経活動および粘弾性の変化、理学療法学 29 Supplement(2)、11、2002.
13. 本多歩美、原田直樹、草野加奈、津本真美、真島京子、井上雅介、五島陽子、豊田紀香、大木田治夫、辻畑光宏、沖田 実：脳血管障害患者における重心移動能力と回転動作との関係について、理学療法学 29 Supplement(2)、70、2002.
14. 西田まどか、鋤塚幸子、沖田 実、中野治郎、吉村俊朗、大久保篤史、友利幸之介、中居和代、豊田紀香、片岡英樹：拘縮ならびに廃用性筋萎縮が進行過程にあるラットヒラメ筋に対する持続的筋伸張運動の影響、理学療法学 29 Supplement(2)、84、2002.
15. 中野治郎、沖田 実、吉村俊朗、本村政勝、辻畑光宏、江口勝美：実験的関節炎ラットに対する他動的伸張運動が骨格筋におよぼす影響、理学療法学 29 Supplement(2)、84、2002.
16. 鋤塚幸子、沖田 実、西田まどか、中野治郎、吉村俊朗、中居和代、大久保篤史、友利幸之介、豊田紀香、片岡英樹、塩塚 順：ギプス固定による廃用性筋萎縮の進行過程について、理学療法学 29 Supplement(2)、86、2002.
17. 片岡英樹、沖田 実、中野治郎、中居和代、豊田紀香、大久保篤史、友利幸之介、西田まどか、鋤塚幸子、吉村俊朗、山下潤一郎：温熱負荷による廃用性筋萎縮の進行抑制効果について、理学療法学 29 Supplement(2)、86、2002.
18. 中居和代、中野治郎、沖田 実、豊田紀香、片岡英樹、大久保篤史、友利幸之介、鋤塚幸子、西田まどか、吉村俊朗、辻畑光宏：ラットの前脛骨筋に対する経皮的電気刺激の影響、理学療法学 29 Supplement(2)、88、2002.
19. 沖田 実、中野治郎、中 徹、吉村俊朗、本村政勝、江口勝美：ラットヒラメ筋の廃用性筋 萎縮の進行に伴う筋組織内のヒアルロン酸の変化、理学療法学 29 Supplement(2)、390、2002.
20. 岡本真須美、加須屋茜、沖田 実、中野治郎、鋤塚幸子、西田まどか、吉村俊朗：ラット足関節拘縮の進行過程における持続的他動運動がヒラメ筋におよぼす影響、理学療法の医学的基礎 6(1)、20、2002.
21. 豊田紀香、沖田 実、中野治郎、中居和代、片岡英樹、西田まどか、鋤塚幸子、大久保篤史、友利幸之介、吉村俊朗：ラットヒラメ筋の廃用性筋萎縮の予防に対する温熱負荷の影響、理学療法の医学的基礎 6(1)、21、2002.
22. 草野加奈、早田康一、武藤晶子、増山美有紀、永田光明子、深堀愛美、大木田治夫、辻畑光宏、沖田 実：理学療法の医学的基礎 6(1)、30、2002.
23. 沖田 実、吉村俊朗、中居和代、豊田紀香、片岡英樹、中野治郎：廃用性筋萎縮の予防としての温熱負荷の影響に関する研究：理学療法学 29 Supplement(3)、93、2002

B-c

1. 江口勝美、折口智樹：悪性関節リウマチ、ESSENCE 膠原病・リウマチー診断へのアプローチ、診断と治療社、東京、60-61、2002
2. 鶴崎俊哉：健常児の歩行運動評価—正常発達による歩行運動時筋電図の変化—、踵歩きギプス療法、穂山富太郎編、医歯薬出版株式会社、東京、50-59、2002
3. 沖田 実、拘縮の病態、踵歩きギプス療法—heel gait cast—、穂山富太郎編、医歯薬出版、東京、13-32、2002.
4. 千住秀明、どこでもできる簡単な呼吸リハビリテーションと排痰法、In プライマリ・ケア医のための呼吸器疾患ア

ブローチ、高野義久、吉田 聡、南江堂、東京、2002、pp109-122.

B-d

1. 加藤克知、イルダ・ビダル、篠田謙一、真鍋義孝、北川賀一、小山田常一、六反田篤：頭蓋骨折をともなうペルー先住民の頭蓋穿孔（Trepanation）について、長崎大学医学部保健学科紀要、15(2)、13-17、2002.
2. 横山茂樹、千住秀明、菅原正志、田井村明博；運動中において腹式呼吸による呼吸コントロールが呼吸循環動態に及ぼす影響、長崎大学医学部保健学科紀要 15：63-68、2002.
3. 千住泰代、大池貴行、栗田健介、勝野久美子、力富直人、浦田秀子、田代隆良、千住秀明；慢性閉塞性肺疾患患者の呼吸筋力と肺機能、運動耐容能の関係、長崎大学医学部保健学科紀要 14：9-14、2002.

原著論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総計
2002	3	0	0	0	3		19	23	4	3	49	52

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2002	0	3	7	10	0	1	46	47	57

原著論文総数に係る教官生産係数一覧

	欧文論文総数 (論文総数)	教官生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文 欧文論文総数	教官生産係数 (SCI掲載論文)
2002	0.058	0.273		

作業療法学専攻

A 欧 文

A-a

1. Ozaki, K., Nagata, K., Hayashida, M., Ohta, Y. Ishii, N., Takemoto, T.: 30-item General Health Questionnaire scores in male and female university freshmen. Acta Medica Nagasakiensia, 47: 15-22, 2002.
2. Kikuchi Y, Nomakuchi K: Two modifications of hidden Markov model and their model comparisons. Mem. Fac. Sci., Kochi Univ. 23: 99-127, 2002.
3. Nakao Y, Motomura M, Fukudome T, Fukuda T, Shiraishi H, Yoshimura T, Tsujihata M, Eguchi K: Seronegative Lambert-Eaton myasthenic syndrome: Study of 110 Japanese patients. Neurology 59 2002
4. Izumi Y, Kinoshita I, Kita Y, Toriyama F, Taniguchi H, Motomura M, Yoshimura T: Myasthenia gravis with diffuse alopecia areata and pemphigus foliaceus. J Neurol. 249: 1455-1456, 2002

A-c

1. Tanaka G., Kisaki H., Kikuchi Y., Inadomi H., Ohta Y.: Analysis of factors concerning the views of the community about the people with mental disorders. In Recent Advances in Early Intervention and Prevention in Psychiatric Disorders (Ogura C. eds.; Seiwashoten, Tokyo) pp.186-187, 2002.
2. Ishida A., Date M., Watanabe Y., Agatsuma Y., Inadomi H., Tanaka G., Ohta Y.: Relationship between the tendency to develop on eating disorder and environmental factors among female university students, In Recent Advances in Early Intervention and Prevention in Psychiatric Disorders (Ogura C.eds.; Seiwashoten, Tokyo) pp.304-305, 2002.

B 邦 文

B-a

1. 吾妻ゆみ、大野宏之、稲富宏之、田中悟郎、太田保之：女子大生における食行動の実態とその社会・心理的要因について。精神医学、44(5)：521-527、2002。
2. 渡邊幸恵、永富康博、御手洗和也、大澤理恵、久寿米木清美、島谷隆男、畠中邦子、廣池とよ子、寺本憲子、衛藤龍、稲富宏之、田中悟郎、太田保之：デイケアに通所した精神分裂病患者における1年間の治療効果。精神科治療学、17：451-458、2002。
3. 太田保之：PTSDとその周辺をめぐる：原子爆弾被爆体験者の長期経過後の精神医学的影響。臨床精神医学、増刊号、146-151、2002。
4. 岩永竜一郎、東登志夫、川崎千里、吉村俊朗、土田玲子：低速回転刺激後と高速回転刺激後における自律神経反応の違い。感覚統合障害研究 9：65-69、2002。
5. 稲田剛久、船越浩志、東 登志夫、榊原 淳、大城昌平、船瀬広三：足関節底屈・背屈による対側ヒラメ筋運動ニューロン興奮性への促通効果。理学療法学 29：123-127、2002。
6. 岩永竜一郎、大迫真貴子、長谷龍太郎、鷺田孝保、土田玲子：前庭及び体性感覚刺激が自閉症児のアイコンタクトに及ぼす影響、作業療法、21：23-28、2002
7. 岩永竜一郎 土田玲子 川崎千里：JMAP 領域別スコアと学習問題の関係、感覚統合障害研究、8：25-30、2002。
8. 渡部奈緒 岩永竜一郎 鷺田孝保：発達障害児の母親の育児ストレス及び疲労感—運動発達障害児と対人・知的障害児の比較—。小児保健研究、61(4)、553-560、2002
9. 岩永竜一郎、三崎一彦、西平賀昭、八田有洋、麓 正樹：運動準備、運動反応、刺激弁別が随伴性陰性変動(CNV)解消課程に及ぼす影響、日本運動生理学雑誌、9(2)、93-100、2002
10. 小澤栄介、藤本武士、本村政勝、調 漸、吉村俊朗、田中恵子：注視方向性水平眼振と運動失調をともなった慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー (CIDP) の一例。臨床神経学 42：221-226、2002
11. 楠本浩一郎、木下郁夫、雨森龍彦、西口雅彦、吉村俊朗：発症約2年後に脊髄神経鞘腫が発見された多発筋炎の1例。臨床雑誌内科 90：981-983、2002
12. 中野次郎、沖田 実、大久保篤史、友利幸之介、吉村俊朗、本村政勝、江口勝美：アジュバント関節炎ラットに対する他動的伸張運動が骨格筋に及ぼす影響。長崎理学療法 3、2002
13. 土田玲子、引野里絵：感覚調整障害が主訴の中核にあると考えられた ADHD 児を経験して。感覚統合障害研究 9：71-82、2002
14. 太田篤志、土田玲子、宮島奈美恵：感覚発達チェックリスト改訂版 (JSI-R) 標準化に関する研究。感覚統合障害

研究 9 : 45-63、2002

15. 太田篤志、土田玲子：感覚調整障害の概念について 感覚統合研究 9 : 1-8、2002

B-b

1. 太田保之：時代が要請する分野—災害精神医学, 最新精神医学、7 (5) : 449-456、2002.
2. 長尾哲男、松尾清美；テクニカルエイドの可能性と課題、作業療法ジャーナル 36(6) : 491-495、2002
3. 長尾哲男；メンテナンスの必要性和課題、作業療法ジャーナル 36(6) : 500-502、2002
4. 長尾哲男；リスクマネジメントの重要性を再確認する、作業療法ジャーナル 36(6) : 503-507、2002
6. 岩永竜一郎、横尾佳奈子：ADHDと感覚統合障害, 実践障害児教育, 30(2), 36-39, 2002
7. 船瀬広三：ヒトの運動ニューロン興奮性の評価とその応用 (キーノートレクチャー報告)、体育学研究、46 : 597-605、2002
8. 船瀬広三：ヒトの脊髄運動ニューロン興奮性の評価とその運動制御研究への応用 (総説)、運動生理学雑誌、9 : 1-19、2002
9. 太田篤志、土田玲子：発達障害児の感覚調整障害, 作業療法ジャーナル、36(2) : 139-144、2002
10. 太田篤志、土田玲子：感覚調整障害の概念について, 感覚統合障害研究 9 : 1-8、2002.

B-c

1. 太田保之：時代が要請する分野—災害精神医学, 最新精神医学、7 (5) : 449-456、2002.
2. 木崎晴美、田中悟郎、松尾文子、大川嘉子、古賀敏治：精神障害者支援のための健康教育を実施して、精神障害の予防をめぐる最近の進歩 (小椋力編；星和書店、東京) pp.188-189、2002.
3. 宮川由香、田中悟郎、出口昭典、長岡興樹：精神科の病院に対する地域の小学生の意識調査、精神障害の予防をめぐる最近の進歩 (小椋力編；星和書店、東京) pp.248-249、2002.
4. 大塚俊弘、後藤雅博、田中悟郎：心理社会的治療・リハビリテーション、学生のための精神医学 (太田保之・上野武治編；医歯薬出版、東京) pp.183-203、2002.
5. 船瀬広三(翻訳分担14章、15章、16章、17章、18章)、運動神経生理学講義—細胞レベルからリハビリまで—、Mark L. Latash 著 “Neurophysiological Basis of Movement”, 笠井達哉、道免和久 監訳、大修館書店、2002
6. 土田玲子：遊び(感覚統合理論の考えを生かして)、脳性麻痺ハンドブック—療育にたずさわる人のために— 医歯薬出版 218-224、2002

B-d

1. 長崎県上五島保健所、田中悟郎：ほっと・はーと・へるす21事業「こころの健康づくり」意識調査報告書、2002.

原著論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総計
2002	4	0	2	0	6		15	10	6	1	32	38

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2002	0	0	12	12	0	1	43	44	56

原著論文総数に係る教官生産係数一覧

	欧文論文総数 (論文総数)	教官生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文 (欧文論文総数)	教官生産係数 (SCI掲載論文)
2002	0.158	0.545		